

# 壁谷 尚樹 (カベヤ ナオキ)

(KABEYA Naoki)



生 年※ 1986年 (38歳)

現 職※ 東京海洋大学 学術研究院 海洋生物資源学部門 准教授

専門分野 水圏生命科学、水族栄養学、脂質生化学

略 歴

- 2009年 東京海洋大学 海洋科学部 卒業
- 2011年 東京海洋大学 大学院 (博士前期課程) 修了
- 2014年 東京海洋大学 大学院 (博士後期課程) 修了  
(博士 (海洋科学) の学位取得)
- 2011年 日本学術振興会特別研究員 DC1
- 2014年 東京海洋大学 博士研究員
- 2015年 英国スターリング大学 MASTS Visiting Fellow
- 2016年 日本学術振興会特別研究員 PD
- 2019年 東京海洋大学 テニュアトラック助教
- 2024年 東京海洋大学 准教授

## 授賞理由

### 「水生動物の多価不飽和脂肪酸生合成酵素の多様性」に関する研究

壁谷尚樹准教授は、水産動物における多価不飽和脂肪酸 (PUFA) 代謝の進化的多様性を解明する研究において、国際的に顕著な成果を挙げている。魚類の脂肪酸代謝酵素遺伝子の比較研究により、栄養要求性を遺伝子情報から予測する新たな枠組みを確立した。さらに、魚類における脂肪酸代謝関連遺伝子の進化的変化と栄養適応との関係を明らかにし、国際的に著名な学術誌に発表された論文は130件以上引用されるなど、この分野の研究に大きな影響を与えている。加えて、無脊椎動物からPUFA生合成に関わる新規酵素 ( $\omega$ x不飽和化酵素) を発見し、従来理解を更新する成果として発表した論文は200件以上引用されている。また、近年は分子生物学と生態学を統合した学際的研究へと発展させ、研究のさらなる広がりや将来性が期待される。また、高い独立性をもって多数の競争的資金を獲得し、国際共同研究の中心的役割を担うなど、研究推進力と国際的発信力にも優れていると評価された。

以上の理由から、壁谷尚樹准教授は水産科学の次世代を牽引する研究者として、大山賞にふさわしい人物であると評価し、授賞を決定した。

※ 2025年4月1日時点